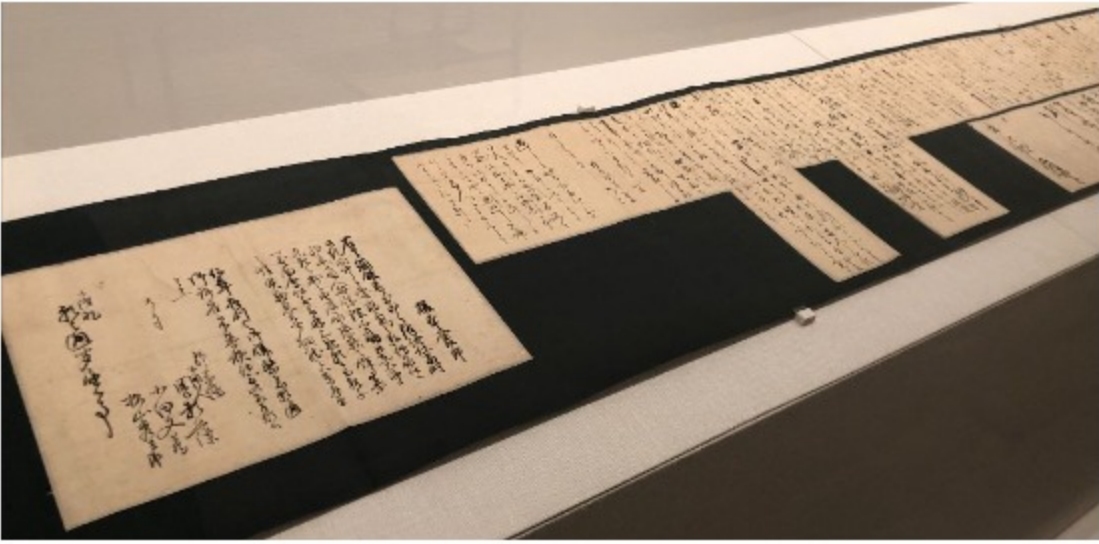


[View this email in your browser](#)



今号のKeMCo Voiceでは、開催中の連携展覧会「オブジェクト・リーディング：精読八景」の模様や最新情報、秋の展覧会情報についてお伝えします。

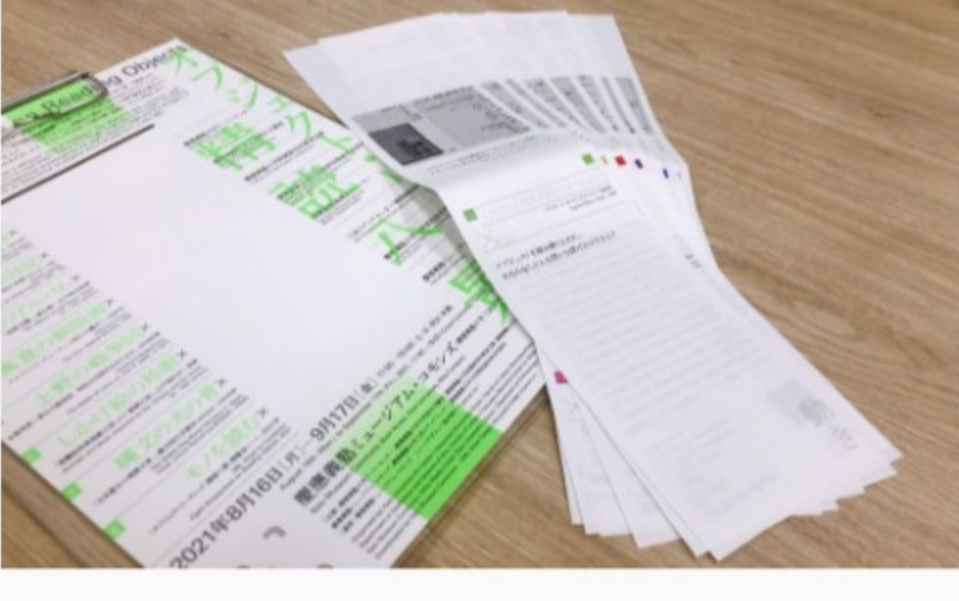
KeMCoの近況

【開催中】連携展覧会「オブジェクトリーディング：精読八景」

8月16日（月）より開催中の連携展覧会「オブジェクト・リーディング：精読八景」展より、展示風景や展示内容をお届けします。



3階展示室（Room1）では、連携している7部署からそれぞれ2点ずつ作品が出品されています。展示室には、参加する部署ごとに一つ、「八景ピース」と名付けられた細長い紙片が置かれており、作品鑑賞を楽しむヒントとともに、さまざまな問いが書かれています。来館者はこの「八景ピース」の問いを考えながら、展覧会に参加することができます。



精読のラウンジ（Room2）では「八景ピース」をシートに差し込み、オリジナルの展覧会カタログを制作することができます。制作したカタログはウェブサイトでも共有することができます。



また、ここでは各部署から集められた資料や成果が並ぶ「棚街」や、出品作品に関するさまざまなデジタル的な展開もご覧いただけます。

一部はオンラインでもご覧いただけます。
Kelo Object Hubで出品作品が一覧できるほか、「短冊手鑑エクスプローラー」では加賀前田家旧蔵『短冊手鑑』に収められている全536首の和歌（短冊）を歌題別に鑑賞いただけます。
会期は9月17日（金）まで。ぜひご来場ください。

精読八景：オブジェクト・リーディング展

展覧会 | 「我に触れよ（Tangite me）：コロナ時代に修復を考える」

今秋、慶應義塾の所蔵作品の保存修復に関する展覧会「我に触れよ（*Tangite me*）：コロナ時代に修復を考える」を、慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾美術品管理運用委員会と共同で開催いたします。

会場はKeMCoとアート・センターの2会場に分かれ、会期中はワークショップやシンポジウムなどのさまざまな企画も開催予定です。

我に触れよ（*Tangite me*）：コロナ時代に修復を考える

会期 | 2021/10/18（月）～2021/12/03（金）

会場 |

南会場：慶應義塾大学アート・スペース（三田キャンパス 南別館1階）

東会場：慶應義塾ミュージアム・commons展示室（三田キャンパス 東別館3階ほか）

その他 慶應義塾大学三田キャンパス構内各所

対象 | どなたでもご覧いただけます

費用 | 無料

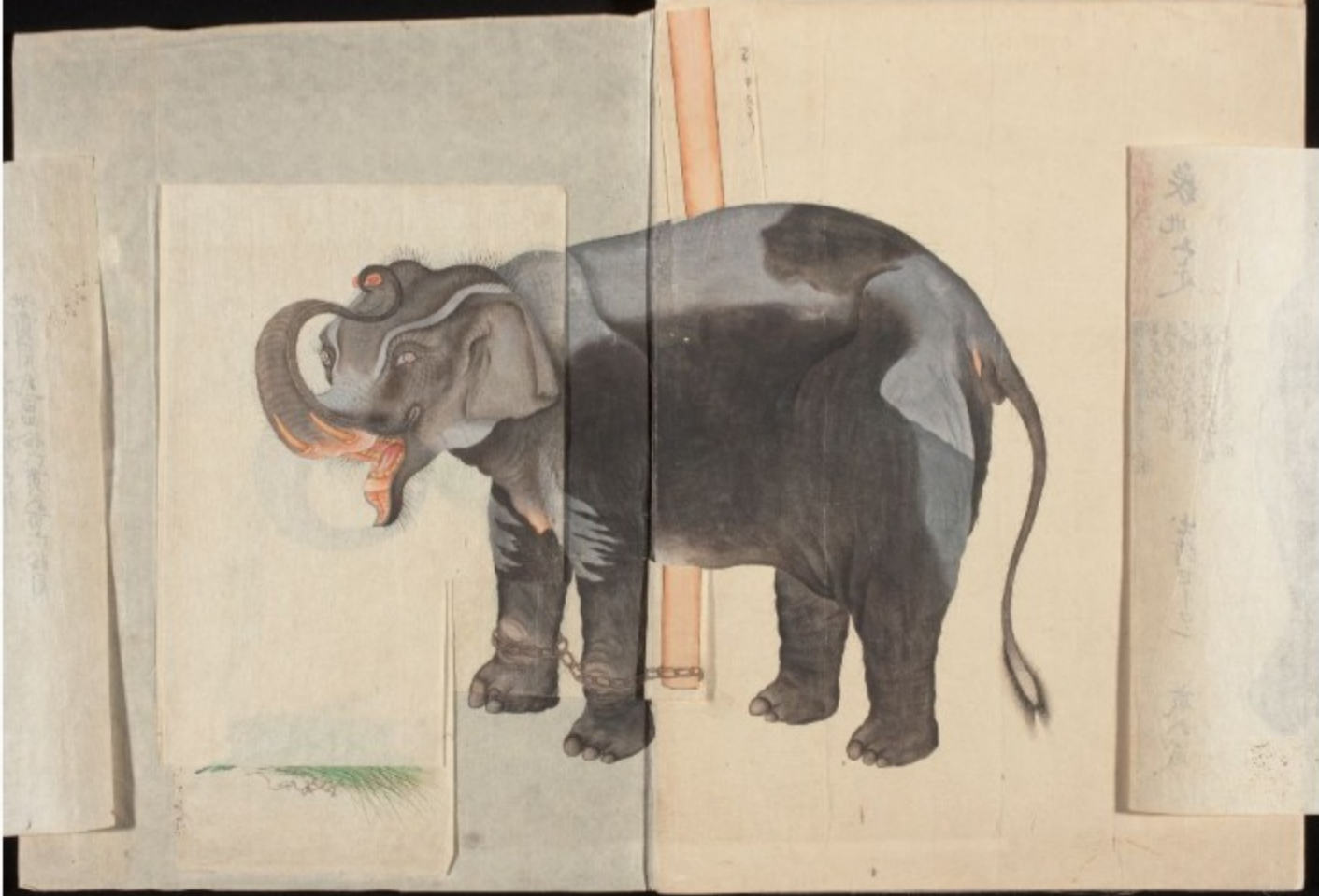
「我に触れよ」——修復を必要とする作品はどのように語りかけているのかも知れません。普段、私たちは芸術作品と距離をとり、触らずに鑑賞することが求められます。一方、修復は作品に近づき、直接触れること無くしては成立しません。「我に触れよ」という作品の聲を聞き、触れることが許された時、私たちはどのように応えるべきなのでしょう。

慶應義塾では、長年にわたり所蔵作品の保存修復を行い、作品を受け継いできました。それらは東京大空襲で図書館と共に被災した大型大理石像や、移設を経て今も三田キャンパスの食堂を飾る壁画、写真感光紙を挟いだ全長約12メートルにおよぶ作品など、素材も設置状況も様々です。

本展では、個々の作品の特性に応じた多様なケアの在り方と手法に注目し、シンポジウムやワークショップを通じて、皆さんと修復について共に考えることを目指します。接触の機会が奪われていたこのコロナの時代に、本展が改めて「触」の観点から芸術作品と向き合う機会となれば幸いです。

我に触れよ（*Tangite me*）展

展示室より、推しモノ #04



現在開催中の「オブジェクト・リーディング：精読八景」展から、「獣類之図」（慶應義塾図書館所蔵「唐蘭船持渡鳥獣之図」より）をご紹介します。

展示されている象の色も鮮やかで、迫力も満点です。現物（オブジェクト）を見ることのすばらしさを感じさせてくれる資料ですが、会場へお越しいただけない方も「Kelo Object Hub」でデジタル画像をご覧になれます。「唐蘭船持渡鳥獣之図」は江戸時代後期に中国船・オランダ船によって長崎に渡来した珍しい鳥獣を複彩色で描いた225枚の図を収録したものです。通常1種類1枚ずつのところ、象だけは象使いの道具や種々の動きを描いた絵と一緒に収められ、当時の人々が象に対して大きな関心を抱いていたことを教えてくれます。展示ケースでは一場面しかお見せできませんが、Room2に設置されたタッチパネルで、象の他の図も見ることができます。

また、関連書籍を置いた「棚街」では、過去の展覧会図録に掲載された他の動物の図もご覧いただけます。1つの魅力的なオブジェクトから、その魅力がさまざまな形で広がっていくことを実感できる資料です。ぜひこの機会にご覧ください。

倉持 隆（KeMCo課長補佐）

空き地

学芸スタッフ（KeMCo） 田村 万里子

こんにちは、初めまして。修士課程 1年生の田村万里子です。大学院ではイタリア美術史を専門に勉強しながら、現在は学芸員を目指しており、KeMCoでは広報関連のお仕事をメインに、お手伝いをさせて頂いています。

広報のお仕事では、日々更新されるSNSへの投稿記事の作成、イベントや展覧会に関する「まとめ」や「レポート」の作成を行い、記事や投稿を見てくださる方に、休み時間や移動時間、ひとり時間にとつたりと楽しみながら読んで頂きたいという思いで書いています。肩肘張らないような文章、を心がけているのですが、これが意外にも難しいものでした。

親しみやすさを大事にすれば、砕けすぎた印象を与えるし、堅い文章はお休みどきに読む気にならない。ちょうど良いバランスを目指しているのですが、まだまだ苦戦中です。最近では、先輩からの下書きへの訂正が少しずつ減ってきたようにも感じているので、一歩ずつ成長していきたいです。

最後になりましたが、「trial & error」で学んでいきたいと思います、と背中を押してくれるKeMCoという温かい環境での貴重な経験に、心から感謝をしております。これからも宜しくお願いします。

KeMCoの広報コンテンツ

お知らせ

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・commonsへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。
いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

次回のKeMCo Voiceは2021年10月に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら



Copyright © 2019-2021 慶應義塾ミュージアム・commons Keio Museum Commons

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

Tel: 03-5427-2021 Fax: 03-5427-2022

お問い合わせ

KeMCo Voiceの配信停止をご希望の方はこちら

This email was sent to <<Email Address>>
why did I get this? unsubscribe from this list update subscription preferences
慶應義塾ミュージアム・commons 2-15-45 Minato-ku, Tokyo 108-8345 Japan

